

主な記事

2 令和5年度施政方針

4 5 令和5年度予算の概要



広報 いせはら

Public Relations Paper

ISEHARA

ありがとう10周年



本市は、昭和46(1971)年の市制施行以来、5次にわたり総合計画を策定し、まちの発展と市民福祉の向上に取り組んできました。

今後、本格的な人口減少が予測される中、本市の持つ特性や強みを生かしながら、市民の暮らしやすさと持続性の高いまちづくりを進めるため、令和5年度を初年度とする10年間の伊勢原市第6次総合計画がスタートします◇8面では、前半5年間で重点的に行う内容や分野別の取り組みを紹介し、[経営企画課 画94-4845](#)

誰もが暮らしやすさを実感できる、選ばれるまちへ

伊勢原市第6次総合計画がスタート

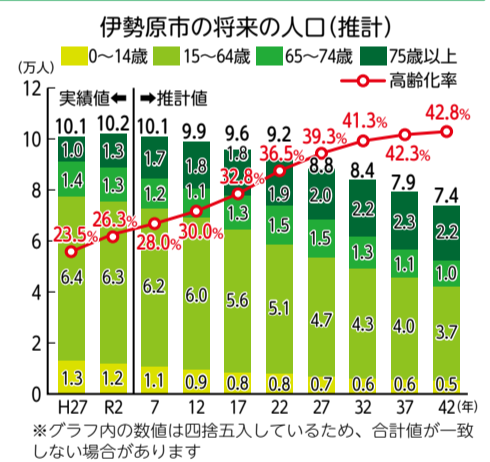
社会環境変化や市民ニーズから見えるまちづくりの課題

- ◆人口減少・少子高齢社会に対応
- ◆自然災害のリスクと安全意識の高まりへの対応
- ◆暮らしに安心が持てるセーフティネットの充実と健康意識の高まりへの対応
- ◆子育て世代の定住促進と教育を取り巻く環境変化への対応
- ◆経済規模縮小による活力低下と地球規模での環境問題への対応
- ◆まちの成長を促す基盤づくりと都市インフラの老朽化への対応
- ◆「つながり」の再認識と持続可能な行財政運営の実現
- ◆公共施設の縮充・最適配置、老朽化への対応

人口の将来推計

本市の人口は、令和42(2060)年には約7万4千人になると推計されています。生産年齢人口(15歳～64歳)は減少していく一方で、高齢化率は12(2030)年に30%に達し、さらに上昇していきます。

将来にわたって持続可能なまちづくりを進めるためには、人口減少を可能な限り抑え、バランスのとれた人口構造にしていく必要があります。



まちの特性や強み

まちの特性や強みを生かしながら「伊勢原らしい」まちづくりを進めます

- ◆東京から50km圏内に位置する首都近郊都市
- ◆雄大な自然、住みやすい温暖な気候
- ◆日本遺産「大山詣り」をはじめとする歴史文化の宝庫
- ◆一次救急から救命救急・高度先進医療が整った医療環境
- ◆農林業や商工業、観光などのバランスがとれた多彩な産業
- ◆新東名高速道路伊勢原大山インターチェンジの開設効果
- ◆今後の新東名高速道路全線開通

10年後のまちの姿

～人と自然と歴史が織りなす～ 暮らしやすさ実感都市 伊勢原

まちの主役である市民と市に関わる全ての人が、秀峰大山の麓に広がる豊かな自然や、先人が築き上げた誇れる歴史文化と密接につながりながら、相乗効果が生まれるまちづくりを進め、大切な故郷を未来へつなげていきます。

こうした「伊勢原らしい」まちづくりを進めることで、安心して暮らせる地域社会の実現と、市民生活の質や利便性の向上を図り、誰もが暮らしやすさを実感できる、住み続けたいと思えるまちを目指します。

土地利用の考え方

土地は、市民の暮らしを支える貴重な財産です。その活用にあたっては、本市の豊かな自然環境と調和させながら、地域の特性を生かした「持続可能なまちづくり」につながる土地利用を図ります。

今後は、新東名高速道路や国道246号バイパスなどの広域交通ネットワークを生かしたまちづくりを進めることで、本市のさらなる成長を促進していきます。

